

カナダ金融政策（2026年6月）

主要先進国で利上げ機運が高まる中でもカナダは据え置き継続

2026年6月11日

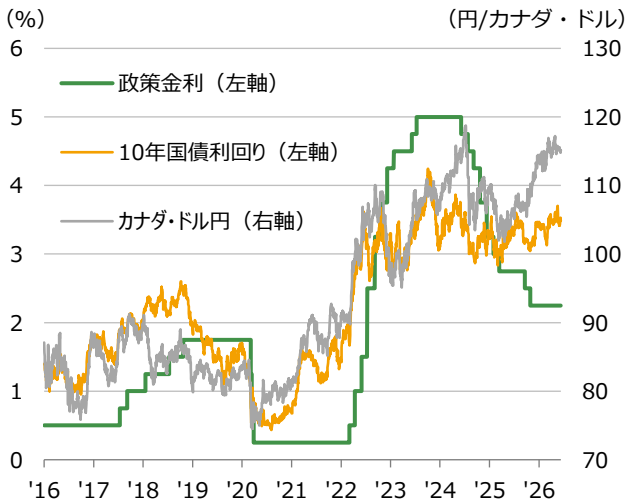
エネルギー高によるインフレ懸念を、景気の弱さが打ち消す

カナダ銀行（中央銀行）は6月10日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を2.25%に据え置くことを決定しました。据え置きは5会合連続です。

主要先進国で利上げ機運が高まる中でも、カナダでは景気の弱さがインフレ懸念を抑えており、政策金利を据え置いて様子を見る余地を中銀に与えています。米国との通商交渉に関する不透明感が景気を抑制する状況が続き、1-3月期の実質GDPは前期比年率▲0.1%と、カナダ銀行の予想に反して2四半期連続となるマイナス成長を記録しました。足元の指標は4-6月期のプラス成長を示唆しているものの、経済は供給過剰の状態が継続するとカナダ銀行は想定しています。また、消費者物価指数は、中東情勢の緊迫化によるエネルギー高の影響で4月に前年同月比+2.8%へと加速したものの、基調を映す加重中央値やトリム平均値は同+2%程度まで鈍化しました。カナダ銀行は「今のところ、エネルギー価格の上昇が他の物価に広く転嫁されている証拠は限られる」と評するなど、今会合でも利上げの切迫感は見られませんでした。

USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）は今年7月1日に発効から6年の節目を迎えますが、単純な延長ではなく、内容見直しの協議が継続する可能性が高まっています。7月以降も通商交渉に関して先行き不透明な状況が続く公算で、当面は利上げが必要になるほどの景気回復やインフレ加速は見込みにくいです。金融政策は様子見が続き、国債利回りは他国に比べて安定的に推移しやすいと考えます。

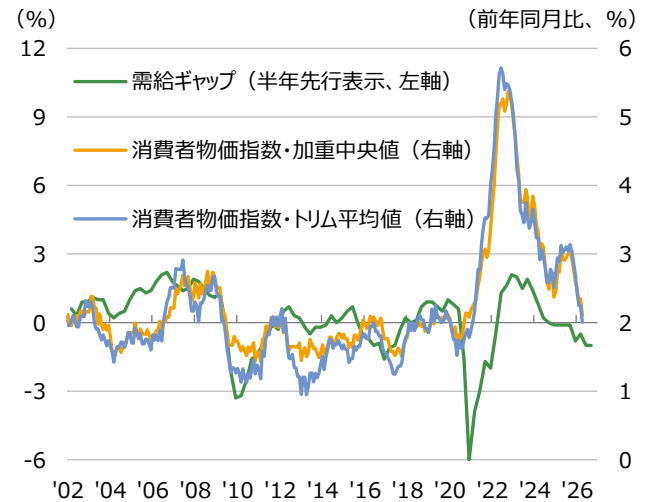
カナダの金利と為替



※直近値は2026年6月10日
※政策金利は決定日ベース

(出所) ブルームバーグ

カナダの需給ギャップとインフレ率



※直近値は需給ギャップが2026年1-3月期、消費者物価指数が2026年4月

(出所) カナダ銀行、カナダ統計局より大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。